

## 次世代医療実現のための基盤形成の今後の方向性について（骨子案）

## 1. はじめに

- 世界各国でバイオバンクによるゲノムデータの大規模化が進行中。オミックスデータや臨床情報等が充実しつつあるところ。
- 近年、疾患関連遺伝子の発見等を起点としたゲノム創薬から、多様なモダリティ（治療法）の上市事例が登場。バイオバンクの利活用が進み、UK biobank等のデータから発見された治療標的に対する創薬研究も進行中。

## 2. これまでの取組

- ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（B-cure）において、一般住民・疾患バイオバンクの構築や先端ゲノム研究開発等を実施。

## 3. 今後の方向性についての提言

## ① 全体像



## ② バイオバンクの在り方

- 利活用促進に係る取組
  - ・ 国内バイオバンクの連携強化（特に疾患バイオバンクと一般住民バイオバンクの連携強化）
  - ・ 解析プロトコルの統一化、解析データの標準化
  - ・ ユーザーとバイオバンクをつなぐハブ機能の強化（ユーザーの多様化を踏まえたデータアクセス支援等）
- コホート調査
  - ・ 三世代コホート等の特色あるコホート調査の継続・充実
  - ・ 介入研究に対応可能な追加コホートの検討
  - ・ コホート参加者に応じた調査方法の見直し
  - ・ 持続的発展に向けた効率的運用の検討
- 試料・情報の整備
  - ・ 利用者ニーズに対応したオミックスデータの充実
  - ・ 一般住民バイオバンクにおける臨床情報・健康情報の充実
- その他
  - ・ 倫理的・法的・社会的課題への対応
  - ・ 遺伝情報等回付
  - ・ 若手人材の育成、人材の多様化の推進
  - ・ 国際動向・国際標準を踏まえたデータ共有の在り方

## ③ バイオバンク等のデータを活用した研究の在り方

- ・

## 4. 終わりに